

第七十五回帝國議會
衆議院

所得稅法改正法律案外三十件委員會會議錄(速記)第二回

會議

昭和十五年二月十四日(水曜日)午後一時十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 堀切善兵衛君

理事小山倉之助君 理事濱野徹太郎君

理事木村 淺七君 理事高橋熊次郎君

理事小笠原三九郎君 理事立川 平君

理事河野 密君

長野 高一君 成島 勇君

池本甚四郎君 中島彌國次君

中村三之丞君 內藤 正剛君

長野 長廣君 川崎 克君

津倉 龜作君 渡邊玉三郎君

櫻井兵五郎君 澤田 利吉君

中川 重春君 石井德久次君

池田七郎兵衛君 上田 孝吉君

山川頼三郎君 豐田 收君

森田 福市君 田中 好君

西川 貞一君 瀧澤 七郎君

付託議案

所得稅法改正法律案(政府提出)(第七號)
法人稅法案(政府提出)(第八號)
特別法人稅法案(政府提出)(第九號)
配當利子特別稅法案(政府提出)(第一〇號)
外貨債特別稅法案(政府提出)(第一一號)
相續稅法中改正法律案(政府提出)(第一二號)
建築稅法案(政府提出)(第一三號)
礦區稅法案(政府提出)(第一四號)
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)(第一五號)
營業稅法案(政府提出)(第一六號)
地租法中改正法律案(政府提出)(第一七號)
酒稅法案(政府提出)(第一八號)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)(第一九號)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二〇號)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二一號)
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)(第二二號)
物品稅法案(政府提出)(第二三號)
遊園飲食稅法案(政府提出)(第二四號)
取引所稅法中改正法律案(政府提出)(第二五號)
通行稅法案(政府提出)(第二六號)
入場稅法案(政府提出)(第二七號)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)(第二八號)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)(第二九號)
狩獵法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)
明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)(第三一號)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)(第三二號)
支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)(第三三號)
營業收益稅法廢止法律案(政府提出)(第三四號)
資本利子稅法廢止法律案(政府提出)(第三五號)
法人資本稅法廢止法律案(政府提出)(第三六號)
臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)(第三七號)

小見山七十五郎君 鈴木 英雄君

佐竹 晴記君 石坂 繁君

道家齊一郎君 藤本 捨助君

北 勝太郎君 武田德三郎君

二月十三日委員川崎末五郎君及松浦伊平君
辭任ニ付其ノ補闕トシテ中島彌團次君及鈴木
英雄君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 櫻内 幸雄君

出席政府委員左ノ如シ

大藏政務次官 木村 正義君

大藏參與官 松田 正一君

大藏省主稅局長 大矢半次郎君

大藏書記官 田中 豐君

大藏書記官 山田 義見君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法改正法律案(政府提出)

法人稅法案(政府提出)

特別法人稅法案(政府提出)

配當利子特別稅法案(政府提出)

外貨債特別稅法案中改正法律案(政府提出)

相續稅法案中改正法律案(政府提出)

建築稅法案(政府提出)

礦區稅法案(政府提出)

臨時利得稅法案中改正法律案(政府提出)

營業稅法案(政府提出)

地租法中改正法律案(政府提出)

酒稅法案(政府提出)

清涼飲料稅法案中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法案中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法案中改正法律案(政府提出)

揮發油稅法案中改正法律案(政府提出)

物品稅法案(政府提出)

遊興飲食稅法案(政府提出)

取引所稅法案中改正法律案(政府提出)

通行稅法案(政府提出)

入場稅法案(政府提出)

印紙稅法案中改正法律案(政府提出)

骨牌稅法案中改正法律案(政府提出)

狩獵法中改正法律案(政府提出)

明治四十四年法律第四十五號中改正法律

案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關

スル件)(政府提出)

大正九年法律第五十一號中改正法律案

(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル

物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)

支那專賣特別稅法及臨時租稅增徴法廢止

法律案(政府提出)

營業收益稅法廢止法律案(政府提出)

資本利子稅法廢止法律案(政府提出)

法人資本稅法廢止法律案(政府提出)

臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

○堀切委員長 ソレデハ是ヨリ稅制特別委

員會ヲ開會致シマス、本日ハ先ヅ大藏大臣

ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス——大藏大

臣

○櫻内國務大臣 本案ノ説明ヲ申上ゲマス、

中央地方ヲ通ズル稅制ノ一般の改正ニ關ス

ル諸法律案ニ付キマシテハ、曩ニ本會議ニ

於テ大體ノ説明ヲ致シタルデアリマスガ、

此ノ機會ニ於テ少シク敷衍シテ説明致シタ

イト存ジマス

曩ニ申述ベマシタル如ク、今回ノ稅制改正

ハ負擔ノ均衡、經濟諸政策トノ調和、收入

ノ増加ト彈力性アル稅制ノ樹立、並ニ稅制

ノ簡易化ト云フ四ツノ事項ヲ目標ト致シマ

シテ、國稅地方稅ノ全般ニ互リ、根本的ノ

檢討ヲ加ヘテ、有效適切ナル改正ヲ斷行シ

以テ多年ノ懸案タル諸問題ヲ解決スルト共

ニ、長期建設ノ段階ニアル我國現下ノ財政

經濟諸事情ニ即應スル稅制ヲ整備確立セン
トスルモノデアリマス、隨ヒマシテ其ノ内
容ハ極メテ廣汎ニ互ツテ居リマスノミナラ
ズ、根本的ノ改正ヲ加ヘタ點ガ多々アルノ
デアリマス、以下改正ノ内容ニ付キ、稍、
詳細ニ御説明申上ゲルコト致シマス

今回ノ稅制改正ニ於キマシテ、其ノ樞軸

ヲ成スモノハ現行ノ直接國稅ノ體系ヲ改組

シテ、新ニ分類所得稅及ビ綜合所得稅ヲ併

用スル體系ヲ採用シタコトデアリマス、御

承知ノ如ク現行直接國稅ノ體系ハ、所得稅

ヲ中樞トシ地租、營業收益稅及ビ資本利子

稅ノ三收益稅ヲ以テ、之ヲ補充スルノ方法

ニ依ツテ居ルノデアリマスガ、同じク收益

稅タル家屋稅ハ地方稅ト致シテ居リマス爲

體系整理ノ點カラ見テモ、負擔權衡ノ上カ

ラ考ヘテモ遺憾ナ點ガ多イデアリマス、

仍テ此ノ際家屋稅ヲ國稅ニ移管シテ、收益

稅制度ニ整備スルコトモ一應考ヘラレハ譯

デアリマスガ、元來收益稅ハ所得稅ノ補充

稅デアリマシテ、之ニ多額ノ收入ヲ期待ス

ルコトハ困難デアリマスノデ、將來相當多

額ノ財源ヲ求メントスレバ、直接稅ニ於キ

マシテハ、結局所得稅ニ依ルノ外ナキモノ

ト信ズルノデアリマス、然ルニ現行ノ所得

稅ハ、最近數次ノ臨時の増徴ヲ重ネマシタ

結果、著シク其ノ伸張力ヲ喪失シテ居リマ

スノミナラズ、所得稅ノ納稅者ハ比較的少

ク、負擔ノ普遍化ノ點ニ於テモ缺クル所ガ

少クナインデアリマス、仍テ此ノ際トシテ

ハ現行所得稅制度ニ根本的ノ改正ヲ加

ヘ、現在ノ如キ累進稅率ノ外ニ、新ニ比例

稅率ヲ導入シテ、稅制ニ大ナル彈力性ヲ附

與スル外、負擔ノ普遍化ヲ圖ル爲、成ベク

多クノ國民ヲシテ所得稅ヲ負擔セシムルコ

トトスルト共ニ、出來得ル限り源泉ニ於テ
課稅シテ、納稅ノ簡易化ヲ期スル必要ガア
ルト思フノデアリマス、斯ノ如ク所得稅ニ比
例稅率ヲ採用シ、所得ノ種類ニ應ジテ源泉
ニ於テ課稅スルコト致シマスルト、所得ノ種
類毎ニ稅率、免稅點等ヲ異ナラシメ、資產所
得ニ重課スルコトニ依リマシテ、所得稅ノ中

ニ收益稅ノ機能ヲモ織込ムコトガ出來ルト

思フノデアリマス、即チ負擔ノ均衡及ビ普

遍化ヲ圖リ、稅制ニ彈力性ヲ附與スルト共

ニ、是ガ簡易化ヲ期スル爲ニハ、此ノ際直

接國稅ノ體系ヲ改組シテ、分類所得稅ト綜

合所得稅ヲ併用スルコトトシ、收益稅制度ハ

之ヲ廢止スルヲ適當ト認メタ次第デアリマス、

尙ホ地租家屋稅及ビ營業稅ハ地方團體ノ諸

施設トノ聯關モ密接ニシテ、元々應益課稅

ノ性質ヲ有スルモノデアリマスルカラ、此

ノ機會ニ於テ是等ノ諸稅ハ之ヲ地方ノ財源

トシテ地方財政ノ確立ニ資スルヲ適當ト認

メタ次第デアリマス

次ニ所得稅制度ノ改正ニ付キ説明致シマ

ス、今回新ニ設クルコトト致シマシタ分類

所得稅ハ、所得ヲ其ノ性質ニ依ツテ不動產

所得、配當利子所得、事業所得、勤勞所得、

山林ノ所得、及ビ退職所得ノ六種ニ區分シ、

各其ノ種類ニ應ジテ稅率、免稅點、控除、

課稅方法等ヲ異ナラシメ、以テ各種所得間ノ

負擔ノ均衡ヲ圖ルト共ニ、課稅方法ノ適正

簡易化ヲ期スルコトト致シタノデアリマス、

先ヅ其ノ稅率ハ財政ノ必要ニ應ジテ伸縮ヲ

容易ナラシムル爲、比例稅率ニ依ルコトト

致シタノデアリマスガ、資產所得タル不動

產所得ト配當利子所得ニ付テハ、各種所得

中最モ重キ百分ノ十ノ稅率ニ依ルコトト

シ、之ニ次イデ資產勤勞共働ノ所得タル營

業所得ニ付テハ百分ノ八・五、營業所得以外ノ事業所得即チ農業、漁業等ノ原始産業ノ所得、醫師、辯護士等ノ自由職業ノ所得、其ノ他ノ種目ニ屬セザル所得ニ付テハ百分ノ七・五トシ、負擔力ノ最モ低キ俸給、給料、賞與等ノ勤勞所得ニ付テハ、最モ輕キ百分ノ六ノ稅率ニ依ルコトヲ致シマシタ、尤モ事業所得中ニ於キマシテモ少額ノモノハ勤勞所得ニ準ズルヲ適當ト認メ、其ノ金額千圓以下ナルトキハ百分ノ六ノ稅率ニ依ルコトヲ致シタノデアリマス、尙ホ配當利子所得中、國債及ビ地方債ニ付テハ、從來ノ例ニ依リ稅率ヲ輕減スルコトトシ、又今回新ニ課稅スルコトヲ致シマシタ元本一定額以上ノ銀行貯蓄預金、產業組合貯金等ノ利子ニ付テハ一般ノ半額程度、即チ百分ノ五ノ稅率ニ依ルコトヲ致シタノデアリマス

次ニ不動産所得ト配當利子所得ニ付テハ、其ノ資產所得タル性質ニ顧ミ、源泉課稅ヲ爲スモノニ付テハ免稅點ヲ設ケズ、賦課決定ニ依リ課稅スルモノニ付テハ、徵稅ノ便宜上、百圓ノ免稅點ヲ設クルコトヲ致シマシタ、而シテ勤勞所得ト事業所得ニ付キマシテハ、所得ヨリソレノ六、百圓及ビ四百圓ノ基礎控除ヲ爲スコトニ依リ、極ク少額ノ所得ニ免稅スルト共ニ、分類所得稅ノ負擔ヲシテ累進的ナモノトシ、以テ比較的少額ノ所得者ニ對スル負擔ヲ緩和スルコトヲ致シタノデアリマス

次ニ扶養家族多キ者ノ負擔ヲ緩和スルコトハ、負擔ノ衡平ノ上カラ見テモ亦人口政策等ノ見地カラ考ヘテモ、此ノ際適當ナコトト認メラレマスノデ、扶養控除ノ制度ヲ大イニ擴充スルコトヲ致シマシタ、即チ現行所得稅ニ於テハ三千圓以下ノ所得者ニ限

リ、控除ヲ認メルコトヲナツテ居リマスガ、今回ハ五千圓程度以下ノ所得者、即チ綜合所得稅ノ課稅ヲ受ケザル者全部ニ之ヲ及ボスコトトシ、又妻ニ付テモ新ニ控除ヲ認ム、ルト共ニ、扶養家族一人當リノ控除額モ、著シク増加スルコトヲ致シテ居リマス、而シテ其ノ控除ノ方法ハ徵稅技術上ノ便宜等ヲ考慮シテ、算出稅額ヨリ一人當リ百五十圓ノ百分ノ八、即チ十二圓ヲ控除スルコトヲ致シテ居ルノデアリマスガ、之ヲ所得額ニ付テ見マスルト、現行ハ百圓ノ控除ナルニ對シ、勤勞所得ハ二百圓、其ノ他ハ大體百五十圓程度ノ控除ト相成ルノデアリマス

次ニ分類所得稅ノ徵稅方法トシテハ、出來得ル限り源泉課稅ノ方法ヲ採用スルコトトシ、以テ納稅ノ簡易化ヲ期スルコトヲ致シマシタ、即チ從來ノ第二種所得稅ニ於ケル公社債、銀行預金ノ利子等ノ外ニ、配當ニ付テモ源泉課稅ニ依ルコトヲ致シマシタ外、新ニ俸給、給料、賞與等ノ勤勞所得ニ付テモ源泉課稅ノ方法ヲ採用スルコトヲ致シタノデアリマス、而シテ其ノ他ノ所得、即チ不動産所得、事業所得等ニ付キマシテハ、前年ノ實績ニ依ツテ賦課徵收スルコトニ致シテ居リマス、尙ホ山林ノ所得ト退職所得ハ、其ノ他ノ所得ト餘程性質ヲ異ニスルモノガアリマスノデ、之ヲ他ノ所得ト區分シ、ソレノ其ノ性質ニ應ジテ適當ナル稅率、基礎控除等ヲ採用シテ居ルノデアリマス

次ハ綜合所得稅デアリマス、分類所得稅ハ比例稅率ニ依ルモノデアリマスカラ、是ノミヲ以テシテハ所得ノ大小ニ因リ負擔力ノ差異ニ應ズル課稅ヲ缺クコトニナリマスノデ、別ニ各人ニ付總テノ所得ヲ綜合シテ、相當額以上ノ所得者ニ限り、累進稅率ヲ以

テ課稅スルコトトシ、以テ大所得ニ重課シテ、所得階級間ノ負擔ノ均衡ヲ圖ル必要ガアルト思フノデアリマス、仍テ大體現行第三種所得稅ノ例ニ依リ綜合所得稅ヲ設ケ、五千圓以上ノ所得者ニ限り五千圓ヲ超ユル部分ノ所得ニ對シ、百分ノ十乃至百分ノ六十五ノ超過累進稅率ニ依リ課稅スルコトヲ致シマシタ

而シテ現行ノ第三種所得稅ニ比シ變更シタ事項中主ナルモノニ付テ説明ヲ致シマスルニ、先ツ第一ハ公社債、銀行預金ノ利子等ニ付テモ綜合課稅ノ建前ヲ採用スルコトニ致シタ點デアリマス、御承知ノ如ク是等ノ所得ニ對シテハ現行制度ニ於キマシテハ、第二種所得稅トシテ比例稅率ニ依ル源泉課稅ノミヲ行ツテ居ルノデアリマスガ、負擔ノ均衡ヲ圖リ、彈力性アル稅制ヲ樹立スル等ノ見地ヨリ、是等ノ所得ニ付テモ此ノ際綜合課稅ヲ行ヒ、累進稅率ニ依リ課稅スルコトヲ致シタ次第デアリマス、併シナガラ是ハ多年ニ互ツテ實施シテ來タ制度ヲ變更スルコトデアリ、各方面ニ影響スル所モ少クナイト認メラレマスノデ、綜合ニ際シテハ所得金額ノ四割ヲ控除シテ課稅スルコトヲ致シマシタ外、尙ホ當分ノ內納稅義務者ノ申請アル場合ハ、綜合課稅ニ代ヘ、分類所得稅ノ外ニ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ源泉ニ於テ課稅スルノ途ヲ講ズルコトトシ、斯クシテ成ベク急激ナル變化ヲ避クルコトニ依ツテ國債ノ消化、貯蓄ノ獎勵等ニ支障ヲ來サザルヤウ萬全ノ留意ヲ致シタ次第デアリマス

第二ハ配當所得ノ計算方法ヲ變更シタコトデアリマス、即チ現行第三種所得稅ニ於キマシテハ、配當所得稅ニ付テハ其ノ二割

ヲ控除シテ課稅スルコトニ致シテ居ルノデアリマスガ、一律ニ二割ノ控除ヲ爲スコトデハ、負擔ニ依ツテ株式等ヲ取得シタ者ト然ラザル者トノ間ニ負擔ノ均衡ヲ缺クコトニナリマスノデ、相當高度ノ累進稅率ニ依ツテ課稅致シマスル綜合所得稅ニ於テハ、二割控除ヲ廢止シテ株式等ノ取得ニ要シタ負債ノ利子ヲ控除スルコトヲ致シタ次第デアリマス

次ニ法人ヨリ受クル清算分配金等ハ之ヲ配當ト看做シテ所得稅ヲ課スルコトヲ致シテ居リマスガ、綜合所得稅ニ於テハ他ノ所得ト分離シテ課稅スルコトヲ致シマシタ、又勤勞所得ニ付テハ總所得金額一萬圓以下ナルトキ一割ノ控除ヲ行フコトニ改メ、其ノ他總テノ所得ニ付テ原則トシテ前年中ノ實績ニ依ツテ課稅スルコトニ統一スルト共ニ、減損更訂ノ制度ハ之ヲ廢止シテ、別ニ災害等ノ原因ニ因リ著シク納稅資力ヲ喪失シタリト認メラルモノニハ、所得稅ヲ輕減免除スルノ途ヲ拓クコトヲ致シテ居ルノデアリマス

次ハ法人稅デアリマス、御承知ノ如ク現行稅制ニ於キマシテハ、法人ニ對シテハ其ノ所得ニ付所得稅ヲ、純益ニ付、營業收益稅ヲ資本ニ付法人資本稅ヲ賦課シテ居ルノデアリマスガ、元來法人ハ個人ト其ノ性質ヲ餘程異ニシ、個人ノ場合ニ於ケルガ如ク所得ノ種類及ビ大小ニ應ジテ課稅ヲ異ニスル等ノ必要モアリマセヌノデ、所得稅ハ原則トシテ個人ニ付テノミ課稅スルコトトシ、法人ニ付テハ其ノ本質ニ顧ミ獨自ノ課稅機構ヲ用フルヲ適當ト認メ、法人稅ヲ創設シテ、現行第一種所得稅及ビ法人資本稅ヲ一括シテ課稅スルコトヲ致シタノ

致シタノデアリマス、尙ホ法人税臨時利得税以外ノ諸税ヲ損金トシテ控除スルコトハ現行ト同様デアリマス

法人所得計算方法ニ關スル改正ノ第二點ハ、缺損金ノ繰越控除ヲ認メタコトデアリマス、即チ現行税法ニ於キマシテハ、法人ノ所得ハ各事業年度毎ニ打切り計算スルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、法人企業ノ實情ニ十分應ジ難キ場合モアリマスノデ、此ノ際右ノ原則ニ或ル程度ノ例外ヲ設ケ、前一年内ニ生ジタ缺損金ハ現事業年度ノ利

益ト通算シテ所得ヲ計算スルコトニ致シタ
ノデアリマス、尙ホ法人ノ受クル配當利子
所得ニ付キマシテハ、其ノ性質徴稅技術等
ニ顧ミ、源泉ニ於テ課稅スルヲ適當ト認
メ、個人ト同ジク分類所得稅ヲ賦課スルコ
トト致シテ居ルノデアリマスガ、負擔ノ重
複ヲ避クル爲其ノ稅額ハ之ヲ法人稅額ヨリ

控除スルコトト致シテ居リマス、法人税ハ
以上ノ外大體現行ノ第一種所得税及ビ法人
資本税ノ例ニ依ルコトト致シテ居リマス
次ニ現行臨時利得税ハ利得ヲ甲種及ビ乙
種ニ分チ、ソレ々基準年度、税率等ヲ異
ニシテ課税シテ居ルノミナラズ、一面法人
ノ付テハ高率ノ利益ニ對シテ果税スル超過

所得稅モアリマシテ、極メテ複雑ナ制度ト
ナツテ居リマスノデ、此ノ際課稅ノ適宜簡
明ヲ期スル爲、臨時利得稅ヲ改組シテ、昭
和四五年ト云フ古キ年度ヲ基準年度トス
ル甲種利得ノ制度ハ之ヲ廢止スルト共ニ、
超過所得稅ヲ之ニ統合シテ課稅スルコトト

致シタノデアリマス、又法人ノ利益ノ計算ニ付キマシテハ、法人税ニ於ケルト同ジク、其ノ負擔ノ適正明確ヲ期スル趣旨ニ依リ、法人税及ビ臨時利得税ハ之ヲ損金トシテ控除

ニ對シテ爲スベキ配當ハ、之ヲ損金トシテ
控除スルコトトシ、又は等ノ法人中産業組
合、商業組合等ノ單位組合ニ對シマシテハ、
其ノ剩餘金ガ年三分以下ノトキハ免稅スル
コトニ致シテ居ルノデアリマス、特別法人
稅以外ノ諸稅ニ付キマシテハ、現行ト同
ジク免稅ヲ存置スルコトニ致シテ居リマス
次ニ尙ホ稅制ノ簡易化ヲ期スル爲、現在
ノ利益配當稅ト公債及社債利子稅トハ、之
ヲ統合シテ配當利子特別稅トシテ課稅スル
コトト致シマシタ、尙ホ現在ノ利益配當稅

ハ、配當率年七分ヲ超ニル利益配當ニ付キ賦課シテ居ルノデアリマスガ、今回分類所得税ニ於テ利益ノ配當ニ對シ、新ニ一割ノ源泉課税ヲ行フコト致シマシタノデ、此ノ點ヲモ考慮シテ配當金中、配當率年一割以下ノ分ニ對スル課税ハ、之ヲ廢止スルコトヲ致シタノデアリマス

次ニ外貨債特別税ハ利率年五分ヲ超ユル
外貨國債ノ利子、五分五厘ヲ超ユル其ノ他
ノ外貨債ノ利子ニ對シ、賦課シテ居ルノデ
アリマスガ、最近ノ實情ニ顧ミ外貨國債ニ
付テハ四分ヲ超ユルモノ、其ノ他ノ外貨債
ニ付テハ四分五厘ヲ超ユルモノニ對シ課税
スルト共ニ、北ノ祭内也居住者ノ所有ニ屬

スル在外證券ニ付テモ、課税スルコトト致シタノデアリマス

次ハ相續稅デアリマス、御承知ノ如ク相續稅ニ付キマシテハ、昭和十二年臨時租稅増徴法ニ依リ、相當ノ増徴ヲ致シタノデアリマスガ、一般國民ノ負擔ヲ増加セシムル

ノ餘額ナキ事情ニアリマス此ノ際トシテハ、
相續税ニ付テモ相當ノ増徴ヲ行フヲ適當ト
認メマシテ、總稅額ニ於テ大體三割程度ノ
增收ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、尙

ホ相續税ニ付キマシテハ、次ノ二點ニ於テ改正ヲ加ヘルコトヲ致シマシタ、其ノ第一ハ新ニ家族控除ノ制度ヲ認メタコトデアリマス、即チ課税價格五萬圓以下ノ死亡ニ因ル家督相續、並ニ三萬圓以下ノ死亡ニ因ル遺產相續ニ付キマシテ、一定條件ノ下ニ扶養家族一人ニ付キ千圓ノ控除ヲ認メルコトニ依リマシテ、小資産ノ負擔増加ヲ緩和スルコトヲ致シタデアリマス、第二ニハ一定期間内ニ行ハレタ贈與ハ、之ヲ合算シテ課税スルコトヲシ、以テ相續財產ノ分割ニ因ル負擔回避ノ弊ヲ除去スルコトヲ致シタデアリマス

次ハ鑛業税ノ改正デアリマス、御承知ノ如ク現行制度ニ於テハ、鑛業ニ付キマシテハ營業收益税ヲ課セズシテ、鑛產物ニ對シテ鑛產税又ハ特別鑛產税ヲ賦課スルノ制度ト相成ツテ居リマスガ、所得税制度ノ改組、營業税ノ創設等ニ伴ヒマシテ、此ノ際鑛產税ノ制度ヲ廢止シ、鑛業ニ對シテモ一般ノ營業ト同ジク、是等ノ租税ヲ賦課スルコトニ改メ、以テ其ノ負擔ノ適正ヲ圖ルコトヲ致シマシタ、併シナガラ鑛業ニ對スル特別ノ課税トシテ、現行ノ鑛區税及ビ砂鑛區税ハ、其ノ儘之ヲ存置スルヲ適當ト認メラレマスノデ、此ノ際法規則簡易化ニ資スル趣旨ヲモ含メテ、現行鑛業法中ニ於ケル鑛區税ニ關スル規定並ニ砂鑛區税法及ビ臨時租税措置法中ニ於ケル、特別砂鑛區税ニ關スル規定ヲ統合シテ、鑛區税法ヲ制定スルコトヲ致シタデアリマス、尙ホ鑛業ニ對スル課税制度ノ改正ニ伴ヒマシテ、鑛業者ノ負擔ニ増加ヲ來ス場合モアリマスノデ、此ノ際時局ニ緊要ナル鑛產物ノ採掘事業ニ對シテハ、後ニ説明致シマス如ク、ソレノ適當ト認

ムル課税ノ輕減、又ハ免除ノ途ヲ講ズルコトヲ致シテ居リマス

次ニ取引所税中取引所營業税制度ノ改正ニ付キ説明致シマス、取引所ニ對シマシテハ、一般ノ營業收益税ヲ課セズシテ、取引所營業税ヲ賦課シテ居ルデアリマスガ、今同直接税體系ノ改組、地方税制度ノ改正等ニ伴ヒ、取引所ノ營業ニ付テモ一般ノ例ニ依リ、法人税及ビ營業税ヲ賦課スルコトヲ致シ、尙ホ是ト共ニ從來ノ取引所營業税ハ之ヲ取引所特別税ト改稱シテ、取引所ニ對スル特權料ノ課税トシテ存置スルコトヲ致シ、新ニ其ノ税率ヲ賣買手數料收入金額ノ百分ノ十二ト定ムルコトヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ會員組織ノ取引所ニ付テハ、從來ト同ジク取引所特別税ヲ課税セザルコトヲ致シテ居リマス

次ニ間接税ノ改正ノ概要ニ付キ説明致シマス、間接税ニ付キマシテモ、此ノ際國庫收入ノ増加ヲ圖ルト共ニ、消費ノ抑制等ニ資スル趣旨ニ依リマシテ、各税ニ互リ相當ノ増徴ヲ行フコトヲ致シタデアリマスガ、戰時國民生活ノ確保、物價政策トノ調和等ヲ考慮シテ、課税物件ノ選擇、各税ノ増徴割合等ニ付十分ノ留意ヲ致シタデアリマス、即チ主トシテ奢侈的消費、又ハ此ノ際トシテハ不急ト認メラル消費ノ負擔ヲ増加スルノ方針ヲ執リ、生活必需品、原料品等ニ對スル課税ハ出來得ル限リ之ヲ避クルコトヲシ、以テ間接税ノ増徴ニ因リ國民ノ生活ヲ不當ニ壓迫シ、或ハ一般物價騰貴ノ機運ヲ促進セシムル等ノコトナキヤウ、萬全ノ注意ヲ怠ラナカッタデアリマス

先ツ酒税デアリマス、現在酒類ニ關シマシテハ、酒造税法、麥酒税法、酒精及酒精含有飲料税法、支那事變特別税法、臨時租稅増徴法、其ノ他多數ノ法規が存在シ複雑ヲ極メテ居ルデアリマスガ、此ノ際稅制ノ簡易化ヲ圖ル爲、是等ノ諸法律ヲ單一稅法ニ統一シテ、新ニ酒税法ヲ制定セントスルモノデアリマス、而シテ酒類ニ對スル課稅ノ方法及ビ内容等ニ於キマシテ種々ノ改正ヲ加ヘテ、最近ノ事態ニ即應セシムルコトヲ致シテ居ルデアリマスガ、以下其ノ主要ナル點ニ付テ説明致シマスルニ、先ヅ第一ハ課稅方法ノ改正デアリマス、御承知ノ如ク酒類ニ對スル課稅方法ト致シマシテハ、從來造石稅制度ヲ可トスルカ、或ハ庫出稅制度ヲ可トスルカニ關シ論議ガ行ハレテ來タデアリマスガ、物品稅ニ於テ庫出稅ヲ實施致シマシタ事蹟ト業界ノ實情トニ照シテ考ヘマスレバ、此ノ際一舉ニ庫出稅制度ニ移行スルコトハ、必ズシモ適當ニアラズト認メラレマスノデ、今回ノ改正ニ於テハ原則トシテ造石稅制度ト、庫出稅制度トヲ併用スルコトニ致シマシタ、唯麥酒ト果實酒ニ付テハ其ノ製造及ビ販賣ノ實情ニ顧ミ、庫出稅ノミヲ課スルコトヲシ、濁酒ニ付テハ造石稅ノミヲ課スルコトヲ致シテ居リマス、第二ハ税率ノ改正デアリマス、酒類ニ於キマシテハ其ノ消費ノ性質、實情等ニ照シ、此ノ際總稅額ニ於テ、三割程度ノ増徴ヲ行フコトヲシ、各酒類ニ付キ負擔ノ均衡ニ留意シツツソレノ適當ト認ムル稅率ヲ定ムルコトヲ致シテ居リマス、其ノ他各酒類ノ取引ノ實情ニ應ジテ、造石稅ノ納期ニ改正ヲ加ヘ、又一定條件ノ下ニ清酒ト合成清酒ノ混合ヲ認ムル等、各種ノ事項ニ付ソレノ適當ト認ムル改正ヲ行フコトヲ致シテ居ルデアリマス

含有飲料税法、支那事變特別税法、臨時租稅増徴法、其ノ他多數ノ法規が存在シ複雑ヲ極メテ居ルデアリマスガ、此ノ際稅制ノ簡易化ヲ圖ル爲、是等ノ諸法律ヲ單一稅法ニ統一シテ、新ニ酒税法ヲ制定セントスルモノデアリマス、而シテ酒類ニ對スル課稅ノ方法及ビ内容等ニ於キマシテ種々ノ改正ヲ加ヘテ、最近ノ事態ニ即應セシムルコトヲ致シテ居ルデアリマスガ、以下其ノ主要ナル點ニ付テ説明致シマスルニ、先ヅ第一ハ課稅方法ノ改正デアリマス、御承知ノ如ク酒類ニ對スル課稅方法ト致シマシテハ、從來造石稅制度ヲ可トスルカ、或ハ庫出稅制度ヲ可トスルカニ關シ論議ガ行ハレテ來タデアリマスガ、物品稅ニ於テ庫出稅ヲ實施致シマシタ事蹟ト業界ノ實情トニ照シテ考ヘマスレバ、此ノ際一舉ニ庫出稅制度ニ移行スルコトハ、必ズシモ適當ニアラズト認メラレマスノデ、今回ノ改正ニ於テハ原則トシテ造石稅制度ト、庫出稅制度トヲ併用スルコトニ致シマシタ、唯麥酒ト果實酒ニ付テハ其ノ製造及ビ販賣ノ實情ニ顧ミ、庫出稅ノミヲ課スルコトヲシ、濁酒ニ付テハ造石稅ノミヲ課スルコトヲ致シテ居リマス、第二ハ税率ノ改正デアリマス、酒類ニ於キマシテハ其ノ消費ノ性質、實情等ニ照シ、此ノ際總稅額ニ於テ、三割程度ノ増徴ヲ行フコトヲシ、各酒類ニ付キ負擔ノ均衡ニ留意シツツソレノ適當ト認ムル稅率ヲ定ムルコトヲ致シテ居リマス、其ノ他各酒類ノ取引ノ實情ニ應ジテ、造石稅ノ納期ニ改正ヲ加ヘ、又一定條件ノ下ニ清酒ト合成清酒ノ混合ヲ認ムル等、各種ノ事項ニ付ソレノ適當ト認ムル改正ヲ行フコトヲ致シテ居ルデアリマス

次ニ清涼飲料税ニ付キマシテハ、其ノ課稅物件中第一種玉「ラムネ」ハ、比較的負擔力ノ少ナキ方面ノ消費ニ屬スト認メラレマスノデ、之ニ付テハ増徴セザルコトヲシ、其ノ他ノモノ即チ「サイダー」「シトロン」「ソーダ」水等ニ付キマシテ、大體三割程度ノ増徴ヲ行フコトヲ致シタデアリマス

次ハ砂糖消費稅デアリマス、申スマデモナク、砂糖ハ必ズシモ營養品トハ稱シ難イト思フデアリマスガ、其ノ消費ノ實情等ニ顧ミマスレバ、各種ノ消費稅ニ付キ相當ノ増徴ヲ行ヒマスル場合、砂糖ニ付キマシテモ或ル程度ノ増徴ヲ行フハ適當ト認メラレマスノデ、今回ノ改正ニ於テ總稅額ニ於テ、大體二割程度ノ增收ヲ圖ルコトヲ致シタデアリマス、又砂糖消費稅ハ多年色相ニ依リ區分ニ從ヒ課稅シテ參ツタデアリマスガ、其ノ後種別ノ廢止、製糖技術ノ進歩等ニ伴ヒ、砂糖ノ品質ニモ相當ノ變化ヲ來シ、色相ニ依リ區分シテ課稅スルコトハ、必ズシモ適當ニアラズト認メラレマスノデ、今回之ヲ製造方法ニ依リ區分スル制度ニ改メテ、含蜜糖ト分蜜糖トニ大別シテ課稅スルコトヲ致シ、以テ糖業ノ現狀ニ即應セシムルト共ニ、其ノ將來ノ改良發達ニ資スルコトヲ致シタ次第デアリマス、織物消費稅ニ付キマシテハ、昭和六年、稅率ノ引下ヲ行フト共ニ、其ノ非課稅範圍ヲ擴張セラレ、爾來最近數次ノ増稅ニモ拘ラズ、是ガ増徴ハ見合ハサレテ參ツタデアリマスガ、今回更ニ各稅ニ互リ相當ノ増稅ヲ行フコトヲ致シマシタノデ、是等トノ權衡ヲモ考慮シ、本稅ニ付テモ輕微ナル増稅ヲ行フコトヲ致シタデアリマス、即チ其ノ稅率從價百分ノ九ヲ百分ノ十二引上グルト共ニ、從

來ノ非課稅織物ノ範圍ヲ縮小シテ、麻、毛等ヲ使用シタル織物ニ對シ、課稅スルコトニ致シタノデアリマス、尤モ一般大衆ノ消費ニ屬スル「ステープル・ファイバ」織物、綿織物等ニ付キマシテハ、現行ト同ジク免稅ヲ存置スルコトニ致シテ居リマス

次ニ揮發油稅ニ付キマシテハ、昭和十二年創設以來、「ガロン」ニ付キ五錢ノ稅率ヲ据置イテ參ツタノデアリマスガ、此ノ際國庫收入ノ増加ヲ圖ルト共ニ、燃料國策ヲ遂行ニ資スル趣旨ニ依リ、「ガロン」ニ付八錢ノ引上ヲ行ヒ、合計十三錢ノ稅率ニ改メントスルモノデアリマス

次ハ物品稅デアリマス、御承知ノ如ク物品稅ハ、主トシテ奢侈的性質ヲ有スト認メラルル物品、又ハ其ノ消費ガ負擔力ヲ示スト認メラルル物品ニ對シ課稅スルノ趣旨ニ依リ、昭和十二年八月北支事件特別稅トシテ創設セラレ、其ノ後支那事變特別稅法ニ引繼ガレ、昭和十三年及ビ昭和十四年ノ兩度ニ互リ、其ノ課稅範圍ヲ擴張セラレテ來タノデアリマスガ、此ノ際奢侈的消費ニ重課スルノ趣旨ニ依リ、其ノ課稅物品中奢侈的性質ノ濃厚ナリト認メラルル貴金屬製品等ノ、第一種甲類ノ物品並ニ寫眞機、蓄音器等ノ第二種甲類ノ物品ニ對スル稅率ヲ、從價百分ノ十五ヨリ百分ノ二十ニ引上グルコトト致シタノデアリマス、而シテ課稅範圍ノ擴張ハ、物價政策トノ調和等ヲ考慮シテ、之ヲ最小限度ニ止ムルコトト致シ、補足的ナ意味ニ於テ象牙製品、七寶製品及ビ琥珀製品ヲ第一種甲類ニ追加シテ、百分ノ二十ノ稅率ニ依リ課稅スルコトトシ、第一種乙類トシテ一定價格以上ノ菓子、愛玩用動物、盆栽及鉢植類ヲ追加シテ、百分ノ十ノ稅率

ニ依リ課稅スルコトトシ、更ニ第二種乙類トシテ高級ノ化粧石鹼、煉齒磨及ビ水齒磨、高級ノ綠茶等ニ付、百分ノ十ノ稅率ニ依リ製造場ヨリ移出ノ際課稅スルコトト致シテ居リマス、而シテ第二種乙類ノ物品中、餡、葡萄酒及ビ麥芽糖ニ付キマシテハ砂糖消費稅ノ増徴トノ權衡ヲモ考慮シ、其ノ稅率ヲ百斤ニ付キ五十錢程度引上グルコトト致シマシタ、尙ホ酒類ニ付テハ之ヲ酒稅ニ統合シテ、庫出稅トシテ課稅スルコトト致シマシタ關係上、酒類ニ對スル物品稅ノ規定ハ之ヲ廢止スルコトト致シタ次第デアリマス

次ニ遊興飲食稅ハ昨年ノ議會ニ於テ御協贊ヲ經、同年四月ヨリ之ヲ實施シテ參ツタノデアリマスガ、最近此ノ種ノ消費ハ増大ノ傾向ニアリマシテ、此ノ際之ニ對スル課稅ヲ相當大幅ニ増徴シテ、此ノ種消費ノ抑制ニ資スルコト共ニ收入ノ増加ヲ圖ルトハ、極メテ妥當ナ措置ト信ジマスルガ故ニ、稅率ヲ五割程度引上ゲ、藝妓ノ花代ニ對スル現行稅率百分ノ二十ハ、之ヲ百分ノ三十トシ、其ノ他ノ料金ニ對スル現行稅率百分ノ十ハ、之ヲ百分ノ十五トスルコト共ニ、飲食ニ對スル免稅點ヲ改正シテ、藝妓ノ花代ヲ伴フ飲食ノ料金及ビ「カフェ」、「バー」等ニ於ケル料金ニ付テハ、免稅點ヲ設ケザルコトトシ、又一般ノ飲食ニ付テモ五圓ノ免稅點ヲ、三圓ニ引下グルコトト致シテ居ルノデアリマス

次ハ入場稅デアリマス、入場稅ハ劇場、活動寫眞館、競馬場等ノ入場者並ニ舞踏場、「ゴルフ」場等ノ設備利用者ニ對シ課稅スルモノデアリマスガ、此ノ種ノ消費行為ハ尙ホ相當ノ擔稅餘力アリト認メラレマスガ故ニ、ソレゾレ稅率ノ改正及ビ免稅點ノ引下ヲ行フコトト致シタ次第デアリマス、即チ先ヅ劇場、活

動寫眞館、競馬場等ノ入場者ニ對シテハ免稅點ヲ多少引下ゲテ大體二十錢以上ノ入場料ニ付キ課稅スルコトニ改ムルコト共ニ、一圓未滿ノ入場料ニ付テハ百分ノ十ノ稅率ヲ据置キ、入場料ガ一圓以上三圓未滿ナルトキハ、百分ノ二十ニ、三圓以上ナルトキハ百分ノ三十ニ引上グルコトトシ、又舞踏場、「ゴルフ」場等ノ設備利用者ニ對シテハ、現行百分ノ十ノ稅率ヲ百分ノ二十ニ引上グルコトニ致シタノデアリマス

次ハ通行稅デアリマスガ、一般ニ增稅ヲ行ヒマスル際デアリマスノデ、本稅ニ付テモ相當程度ノ增徴ヲ行ヒ、國庫收入ノ増加ヲ圖ルトコトト致シマシタ、即チ其ノ稅率ヲ相當引上グルト共ニ、新ニ四十斤以上五十斤未滿ノ三等乘客ニモ課稅スルコトトシ、又急行料金ニ對シテモ一割ノ課稅ヲ行フコトト致シテ居ルノデアリマス

次ニ取引所稅中取引稅ニ付キマシテハ、最近ニ於ケル株式取引ノ狀況ニ照シ、尙ホ增徴ノ餘地アリト認メラレマスノデ、株式ノ賣買取引ニ對スル稅率ヲ相當引上グルコトト致シマシタ、尙ホ其ノ他骨牌稅及ビ狩獵免許稅ニ付キマシテハ、最近數次ノ增稅ニモ拘ラズ、是ガ稅率ノ引上ヲ見ナカツタノデアリマスガ、此ノ際一般ノ增徴ヲ行ヒマスルニ伴ヒマシテ、此ノ兩稅ニ付テモ相當ノ增徴ヲ行フヲ適當ト認メ、ソレノ適當ト認ムル稅率ノ引上ヲ行フコトト致シテ居ル次第デアリマス

尙ホ以上ノ改正ノ外、支那事變特別稅法ノ廢止ニ伴ヒ、同法中ニ於ケル建築稅ニ關スル規定ヲ其ノ儘取蠲メマシテ、建築稅法ヲ制定スルコト共ニ、物品切手ニ對スル印紙稅ノ增徴ニ關スル規定ヲ、印紙稅法ニ移シ

規定スルコトニ致シタ次第デアリマス

次ニ臨時租稅措置法ノ改正ニ付キ說明致シタイト存ジマス、曩ニ本會議ニ於テ申述ベマシタルガ如ク、稅制ノ改正ト經濟諸政策トノ調和ニ關シテハ、增稅額ノ決定並ニ配分、企業ニ對スル課稅、配當利子所得ニ對スル課稅、間接稅課稅物件ノ選擇等ニ關聯シテ、十分ノ留意ヲ致シタ次第デアリマスガ、此ノ際生產力ノ擴充其ノ他時局下緊要ナル經濟諸政策ヲ遂行ニ資スル爲、臨時租稅措置法ヲ改正シテ、租稅上ノ必要ナル措置ヲ講ズルコトト致シマシタ

其ノ第一ハ法人ノ留保所得ニ對スル課稅輕減ノ制度ヲ擴張シタコトデアリマス、即チ現行法ニ於キマシテハ、法人ガ所得ノ四割以上ヲ留保シテ、之ヲ生産設備ノ擴張、國債ノ保有等ニ運用致シマシタ場合ニ於テハ、其ノ運用金額ノ百分ノ一・四五ニ相當スル所得稅ヲ、輕減スルコトニ致シテ居ルノデアリマスガ、今回ハ所得ノ三割以上ヲ留保シタル場合ニ、其ノ運用金額ノ百分ノ二・六ニ相當スル法人稅ヲ輕減スルコトト致シマシタ

第二ハ海外企業ヨリ生ズル所得ニ對スル法人稅、及ビ分類所得稅ノ輕減デアリマス、此ノ際海外企業ノ發展ヲ圖リマスコトハ、最モ必要ナコトト認メラレマスノデ、海外企業ヨリ生ズル所得ニ付キマシテハ、法人ニアリテハ法人稅ノ稅率ヲ百分ノ四ダケ輕減シ、個人ニアリテハ分類所得稅ノ稅率ヲ、百分ノ二ダケ輕減シテ課稅スルコトト致シテ居リマス

第三ハ重要礦物ヲ目的トスル鑛業ニ對スル課稅ノ輕減デアリマス、曩ニモ申述ベマシタル如ク、此ノ際金鑛、銅鑛、鐵鑛、錫鑛、

亞鉛礦、硫化鐵礦、「ニッケル」礦、「マンガン」礦、石油等ノ重要礦物ノ増産ヲ圖ルコトハ、時局ニ鑑ミ緊要ナリト認メラルノデマリマスルガ、鑛業ニ對スル課税制度ノ改正ニ伴ヒ、負擔ノ増加ヲ來ス方面モアリマスノデ、是等ノ重要礦物ヲ目的トスル鑛業ヨリ生ズル所得ニ對シテハ、臨時租税措置法ニ依リ、分類所得税及ビ法人税ノ税率ヲ、ソレノ百分ノ二ダケ輕減スルコトト致シテ居ルノデアリマス、尙ホ是ト共ニ、重要礦物ノ採掘ヲ開始シタル者、又ハ設備ヲ増設シテ採掘ヲ爲ス者ニ對シテハ、新ニ一定年間所得税、法人税及ビ營業税ヲ免除スルコトト致シテ居リマス

第四ハ事業會社ニ對スル加算税ノ適用ヲ緩和セントスルコトデアリマス、即チ同族會社中事業ノ經營ヲ主タル目的ト爲スモノニ付テハ、法人税ニ於ケル税額加算ノ條件ヲ著シク緩和スルコトト致シマシテ、産業ノ發展ニ支障ナキヤウ努メタ次第デアリマス

第五ハ生命保險會社ノ所有スル株式ノ配當ニ對スル課税ノ輕減デアリマス、既ニ御説明致シマシタ如ク、株式ノ配當ニ付キマシテハ、今回分類所得税トシテ新ニ一割ノ源泉課税ヲ行フコトト致シタノデアリマスガ、生命保險會社ハ相當多額ノ株式ヲ所有シテ居リマス關係上、今回ノ源泉課税ニ依リ、其ノ經營ニ相當ノ影響ヲ及ボスモノアリヤニ認メラレマスノデ、事變下ニ於ケル保險業ノ實情等ヲ考慮シテ、經過ノナ措置ト致シマシテ、生命保險會社ガ從來ヨリ引續キ所有スル株式ノ配當ニ付、源泉課税ノ税率ヲ百分ノ十ヨリ百分ノ六ニ輕減シテ、是ガ負擔ノ増加ヲ緩和スルコトト致シタ次第デアリマス

尙ホ以上ノ外臨時租税措置法ニ付キマシテハ、樽入黑糖等ノ容器トシテ、樽以外ノモノヲ認容スルコトト致シマシタ外、各税ノ改廢ニ伴ヒマシテ、ソレノ必要ナル改正ヲ施スコトト致シタ次第デアリマス、以上ハ國稅各税ノ改正ノ概要ニ關スル説明デアリマス

此ノ機會ニ於テ地方税ノ改正ニ付キマシテモ、簡單ニ説明致シマス、地方税制ノ改正ニ當リマシテハ、地方税負擔ノ均衡ト、地方財政ノ基礎ノ確立等ヲ目標ト致シマシテ、地方税制ノ根幹ニ二ツノ重要ナル改正ヲ行ハントスルモノデアリマス

其ノ一ハ、直接國稅體系ノ改組ト關聯致シマシテ、地租、家屋税及ビ營業税ノ如キ物税ヲ以テ、地方團體ノ獨立財源ノ中心トシ、地方税ヲシテ應益課税ノ原則ニ適合スル税種ニ依存セシムルコトト致シタ點デアリマス、唯課税ノ方法ト致シマシテハ、負擔ノ均衡ヲ期スル等ノ理由ニ依リマシテ、是等諸税ノ一部ハ之ヲ國ニ於テ徵收シ、其ノ收入ヲ還付税トシテ、是ガ徵收地タル府縣ニ還付スルコトトシ、又地方團體ハ之ニ相當額ノ附加税ヲ賦課スルコトト致シテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ負擔ノ程度ハ、三税間ノ均衡ヲモ考慮致シマシテ、國稅及ビ附加税ヲ通ジ、地租ハ土地賃賃價格ノ百分ノ八、家屋税ハ家屋ノ賃賃價格ノ百分ノ七、營業税ハ營業純益ノ百分ノ六ヲ目途トスルコトニ致シテ居リマス、右ノ改正ニ伴ヒマシテ、國稅タル地租ニ付テハ、其ノ税率ヲ賃賃價格ノ百分ノ二ニ改メ、又少額地租ノ免稅範圍ヲ擴張シテ、賃賃價格ノ合計五圓未滿ノ時ハ、地租ヲ免除スルコトト致シマスル等、適當ト認メル改正ヲ行ヒ

マスルト共ニ、新ニ營業税法ヲ創設スルコトト致シマシタ、營業税ハ大體現行營業收益税ノ例ニ依ルコトト致シテ居ルノデアリマスガ、税率ヲ純益ノ百分ノ一・五ト致シマシタ外、湯屋業、理髮美容業、其ノ他主トシテ現行地方營業税ノ課税種目ヲ新ニ採リ入レマシテ、之ニ營業税ヲ課スルコトト致シマスルト共ニ、法人ニ付キマシテハ、其ノ清算純益ニ對シテモ課税スルコトニ致シテ居ルノデアリマス、又家屋税ニ付キマシテハ、近日中ニ之ニ關スル法案ヲ提出シテ、御協賛ヲ求ムル見込デアリマスガ、國稅ト致シマシテハ、昭和十七年度ヨリ之ヲ實施スル方針ニ依ルコトトシ、昭和十五、十六ノ兩年度ニ於テ家屋賃賃價格ノ調査ヲ行フ豫定デアリマス

地方税制ニ關スル改正ノ第二點ハ、地方税制ニ分與稅制度ヲ採リ入レタコトデアリマス、地方財源ノ地域的偏在ヲ調整スルコトト致シマシテ、即チ國稅トシテ徵收シタル地租、家屋税及ビ營業税ハ、之ヲ還付税トシテ府縣ニ還付スルノ外、所得税、法人税、入場税及ビ遊興飲食税ノ各一部ヲ以テ配付税トシテ、各地方團體ニ對シ人口、課税力等ヲ標準トシテ、調整的ニ交付スルコトト致シテ居リマス、而シテ此ノ分與稅制度ノ創設ト共ニ、從來負擔均衡ノ上カラ兎角ノ非難ガアリマシタ戸數割ハ之ヲ全廢シ、新ニ負擔分任ノ精神ヲ充足セシムル爲、市町村獨立稅トシテ、市町村民稅ヲ創設スルコトト致シテ居ルノデアリマス、尙ホ其ノ他所得稅附加税ハ之ヲ廢シ、法人税ニ付テハ附加税ノ賦課ヲ認メザルコトト致シ

タ外、雜種税、市町村特別税等ニ付キマシテモ、ソレノ適當ナ整理改正ヲ加ヘテ負擔ノ均衡ヲ圖ルコトト致シテ居ルノデアリマス

以上中央及ビ地方ヲ通ズル税制ノ一般的改正ニ付キ其ノ概要ヲ説明致シタノデアリマスガ、國稅制度ノ改正ニ依リマシテ平年度一般關係ニ於テ、新法ニ依ル分類所得税ハ五億八千六百餘萬圓、同じく綜合所得税ハ四億六千六百餘萬圓、計十億四千八百餘萬圓、新法ニ依ル法人税ハ五億八百餘萬圓、超過所得税ヲ除ク現行所得税ノ減少八億九千六百餘萬圓、特別法人税創設ニ因ル増加百五十餘萬圓、現行地租ノ減少四千九百四十餘萬圓、現行營業收益税ノ廢止ニ因ル減少一億三千五百餘萬圓、資本利子稅廢止ニ由ル減少四千八百三十餘萬圓現行法人資本稅廢止ニ因ル減少三千八百八十餘萬圓、臨時利得稅ノ改正ニ因ル増加一億一千七百餘萬圓、配當利子特別稅ノ減少三千六百六十餘萬圓、外貨債特別稅ノ増加九百三十餘萬圓、相續稅ノ増加三千二百九十餘萬圓、鑛產稅及特別鑛產稅ノ廢止ニ因ル減少五百五十餘萬圓、取引營業稅ノ改正ニ因ル減少五十餘萬圓、酒稅ノ増加五千二百二十餘萬圓、清涼飲料稅ノ増加二百三十餘萬圓、砂糖消費稅ノ増加二千五百三十餘萬圓、織物消費稅ノ増加一千九百九十餘萬圓、揮發油稅ノ増加一千二百三十餘萬圓、酒類ノ物品稅ヲ除ク物品稅ノ増加九百六十餘萬圓、遊興飲食稅ノ増加六千四百四十餘萬圓、取引稅ノ増加四百八十餘萬圓、通行稅ノ増加七百八十餘萬圓、入場稅ノ増加七百五十餘萬圓、狩獵免稅證等印紙收入ノ増加、五十餘萬圓ト相成リマスノデ、結局國稅ニ於テ平年度約七億一千五

百萬圓、初年度タル昭和十五年度約五億二千八百萬圓ノ增收ト相成ルノデアリマス、而シテ以上ノ外ニ地方分與稅分與金特別會計ノ歳入ニ所屬セシムルコトト致シマシタ地租ト營業稅ノ收入ガ、平年度九千八百餘萬圓、初年度七千六百餘萬圓デアリマスノデ、是等ヲ通ズル一切ノ國稅トシテハ、平年度約八億一千四百萬圓、昭和十五年度約六億四百萬圓ノ增收ト相成リマス見込デアリマス、併シナガラ一面地方稅ノ改廢ニ伴ヒ、地方分與稅分與金トシテ、地方團體ニ交付スル金額等ガ從來ノ臨時地方財政補給金ノ外ニ、平年度約三億三百萬圓、初年度約二億三千萬圓ガ増加スルコトニナツテ居リマスノデ、差引國庫收入ノ純増加ハ平年度約五億一千萬圓、初年度約三億七千三百萬圓ト相成ル見込デアリマス、以上稅制改正ニ關スル諸法案ニ付說明致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御贊成アラシコトヲ希望致シマス

○堀切委員長 只今ノ御說明ニ付テ内容ノ意味等ハ他日御尋致ストシテ、何カ御話ニナツタ文句ノ中ニ不明ダツタトカ、聽漏ラシタ點等ガアリマシタナラバ、此ノ際御尋置キテ願ツテ置ケバ結構ダト思ヒマス

一寸只今御讀ミニナリマシタ中デ株式等ノ取得ニ要シタル利子ヲ引クト云フ所ニ「等」ト云フ字ガアツタヤウデアリマシタガ、果シテサウデセウカ

○櫻內國務大臣 ゴザイマス

○堀切委員長 有難ウゴザイマシタ、サウル株式バカリデハナイ譯デスネ、株式等ノ取得ニ要シタル利子ヲ引クト云フコトデスナ

○小山委員 資料ノ要求ヲ致シタイノデア

リマスガ、私ノ方デ此處ニ書イタモノガアリマスカラ之ヲ讀ミ上ゲマス、國民總所得及ビ貯蓄額(最近五箇年)月別物價等銀金利指數(最近五箇年)自然増收額(昭和十二年十三年十四年、但シ増稅ヲ除シタルモノ)大正十三年以來稅法改正一覽表、國稅各稅種收入見込表、所得稅種別(第一種、第二種、第三種)收入額(最近五箇年)所得稅階級別納稅人員數、臨時利得稅調定額(十四年度)遊興稅ノ豫定ト實績(府縣別但シ十四年度見込)物品稅ノ豫定ト實績(但シ十四年度見込)地方稅收入額(府縣別、種別、府縣稅、市稅、町村稅最近五箇年)自動車稅及ビ自轉車稅額(府縣別)專賣益金表(最近五箇年内地、朝鮮、臺灣)國稅、滯納處分表(最近五箇年間)接犯罪者處分法ニ依ル處分數(最近五箇年)是ハ重複スルカモ分リマセスガ、若シ重複ガアリマシタラ一ツ御訂正ヲ願ヒタイ、各稅勅令(其ノ他委員命令事項)案要綱、各稅改正稅額及ビ增收額內譯(初年度ト平年度共)配當所得ニ割除廢止ニ因ル增收額、株式取得ニ要シタル負債利子控除ニ因ル減收額、總テノ負債ノ利子ヲ控除スル場合ノ減收額、配當所得計算期間ヲ曆年ニ改ムル場合ノ減收額、法人利益計算上從來通リ稅金ヲ損金トスル場合ノ減收額、法人稅、臨時利得ト區別願ヒタイノデス、同族會社加算稅規定改正ニ因ル減收額、綜合所得計算上分類所得稅ヲ控除スル場合ノ減收額、解散法人ヨリ分配ヲ受クル殘餘財產ノ出資超過額ヲ配當トスルニ因ル增收額、公社債利子等源泉課稅選擇ニ因ル減收額、臨時租稅措置法改正ニ因ル減收額、各稅別各事項毎ニ御願致シマス、直間國稅負擔額調(改正現行比較)直接稅ト間接

稅及ビ其ノ他稅トノ割合(最近五箇年)地方稅制改正ニ因ル地方稅增收減收額、(改正現行比較)私ノ要求スル大體ノ資料ハ是ダケデアリマス、後程必要ガアリマシタラ追加致シマス

○堀切委員長 出來ルダケ調べテ出シテ戴キマス

○高橋委員 私ノ要求スル資料ヲ申上ゲマス、一、稅制改正ニ對スル主稅局ノ原案、二、改正稅法ニ附隨スル勅令案又ハ命令要項、三、稅制調查會ノ速記録、四、昭和五年以來ノ國民所得調、以上デアリマス

○立川委員 私モ資料ヲ請求シマスガ、重複シタモノガアツタヤウニ存ジマスガ、是ハ適當ニ御取捨ヲ願ヒマス、新舊法律ノ各對照表、勅令、命令各要項全部、增收額算出ノ根據ノ表、ソレカラ個人事業所得者ノ四百圓、二千圓、四千八百圓、五千圓、一萬圓、三萬圓、五萬圓、八萬圓、十萬圓、十五萬圓、二十萬圓、二十五萬圓、三十萬圓、五十萬圓ノ各事業所得者ノ新稅法ニ依ル納稅額計算表、五、資本金二百萬圓拂込濟積立金ナシノ法人ガ年額二十萬圓、二十五萬圓、三十萬圓、四十萬圓、五十萬圓ノ各事業所得者ヲ得タ場合ノ新稅法ニ依ル納稅額ノ計算表、竝ニ此ノ純益ヲ法人ガ納稅シタル殘高ヨリ百分ノ五ノ法定積立ヲ殘シタ其ノ殘存金ヲ同一家族ニ全部配當シテ、其ノ配當金ヲ受取ツタ個人ハ、其ノ個人ノ新稅法ニ依ル納稅額ヲ各名目毎ニ算出シテ納稅スルトセバ、最後ニ其ノ事業家トシテノ純收入ハドウナルカ、六、最高制限ガナクナツタ結果、純益ヨリモ納稅額ガ多クナルモノガアルト思フ、資本金十萬圓、十五萬圓、二十萬圓ノ純益ノアツタ場合ニサウ云フモ

ノガアルト思フガ、其ノ表、七、舊法ノ第三種所得稅法ト新法ノ分類綜合兩所得稅法ニ依リ段階式ニシテ同一收入ニ對スル稅額ノ比較及ビ其ノ增收ノ表、是ハ大體四百圓カラ百萬圓マデノモノヲ段階式ニシタモノ、八、事業家タル株主ガ會社デ或ル收入ヲ得テ法人所得ヲ納メ、殘リノ所得ノ配當ヲ受ケテソレニ各種ノ納稅ヲスレバ一體ドレ位正味ノ殘高ガアルカ、是モ段階ヲ少シ付ケテ表ヲ作ツテ戴キタイ、九、飲食遊興稅ノ今日マデノ實績、收入、府縣別ノ明細、十、過去三箇年分ノ課稅決定ニ對スル異議申立者ノ數及ビ其ノ異議アルニモ拘ラズ納稅ヲ一應サセタモノ、十一、酒ノ造石數ト割水ヲシタ庫出石數、ソレカラ消費者ノ消費石數、十二、新稅法ニ依ル各國稅別ノ收入見込ノ一覽表、但シ所得額ノ稅率ヲ示シタ正確ナ計算、ソレカラ次ハ稅制調查委員會ノ速記録全部、ソレカラ平年度ニ於ケル地方分與稅、第二條第二項ノ金額、十五年度ニ於ケル道府縣標準單位稅額及ビ各道府縣單位稅額、各道府縣別ノ災害土木費ノ負債額、第十七條第一項該當ノ府縣名、同第二項該當府縣名、市町村標準單位稅額、十五年度ニ於ケル大都市配付稅、都市配付稅、町村配付稅ノ各金額見込高、各大都市單位稅額及ビ大都市標準單位稅額、同ジク第二十五條該當ノ大都市及ビ同第二項該當ノ大都市、各都市ノ單位稅額、同標準單位稅額、同ジク第三十二條該當都市、同ジク第二項該當都市、第三十九條該當町村數、同ジク第二項該當町村數、第五十一條ニ該當スル道府縣、第五十三條ノ該當府縣、以上デアリマス

○河野委員 私モ資料ヲ要求致シマス、重

複シタラ適當ニ取捨ヲ願ヒタイト思ヒマス、
第一ハ所得階級別所得稅負擔金調（現行法
及ビ改正案トノ比較）二、所得階級別納稅
人員所得額及ビ納稅額調、三、右改正案ニ
依ル見込額調、四、國民所得ニ對スル租稅
負擔ノ割合（現行及ビ改正案）五、右英米佛
獨伊等トノ比較、六、所得金千圓、二千圓、
五千圓、七千圓、一万圓ニ於ケル不動產所
得、配當利子所得、事業所得、勤勞所得ノ
負擔稅額比較（地方稅ヲ含ム）七、所得中ニ
各種所得ヲ含ム場合ニ於ケル所得稅額算出
ノ計算例、八、最近三箇年ニ於ケル直接稅
及ビ間接稅收入額並ニ割合、九、右改正後
ニ於ケル見込、十、最近五箇年ニ於ケル不
動產所得、配當利子所得、事業所得、勤勞
所得ノ所得金額調、十一、現行稅制トノ比
較ニ於ケル改正案ニ依ル稅收増減ノ一覽
表、十二、全國諸會社ノ留保所得調（最近
三箇年）、十三、租稅臨時措置ニ依リ減免セ
ラレタル稅額調、十四、物品稅實施以來ノ
種目別稅收調、十五、所得金額四百萬圓ヲ
超エル者ノ數、納稅者名、所得内容、十六、
稅制改正ニ伴フ勅令及ビ省令案要項、以上
デアリマス

タ資料ハ、出來ルダケ速ニ調製シテ提出致
シタイト存ジマスガ、本日御配リ致シマシ
タ資料ノ中、「租稅ニ關スル參考計表」ト云
フモノニ、相當部分入ツテ居ルヤウデゴザ
イマス、ソレカラ「稅制改正ニ因ル租稅及
印紙收入歳入額増減表」ト云フ資料ノ中ニ
モアルト存ジマス、ソレカラ立川サンカ
ラ、所得稅ニ於ケル最高制限ノ規定ヲ撤廢
シタカラ、其ノ結果純益ヨリモ納稅額ノ方
ガ多クナル場合ガアルノデハナカラウカト
云フ御尋デアリマシタガ、是ハゴザイマセ
ヌ、隨テ此ノ資料ハ提出致シ兼ネマス
○堀切委員長 各委員カラ御請求ガ多イヤ
ウデスガ、政府カラ御提出ニナツタ稅ノ種
類モ隨分多イノデスカラ、ドウゾ一ツ出來
ルダケ材料ヲ御出シ願ヒマス
○高橋委員 只今稅制調查會ノ速記録ガナ
イト云フ御話デアリマス、ソレデハ稅制調
查會ニ於ケル答申案ガアルト思ヒマスカラ
其ノ答申案ヲ御願ヒ致シタイト思ヒマス、
ソレカラ各國ノ稅制ノ調查會ヲシクモノガ
アルヤニ承ツテ居ルノデアリマスガ、各國
ノ稅制ノ調査サレタモノノ印刷ガアルトス
ルナラバ、吾々ノ審議上非常ナ參考ニナル
ト思ヒマスカラ、是非頂戴シタイト思ヒ
マス

○石坂（繁）委員 私モ資料ヲ要求致シマス、
第一、地方債ノ總額、之ヲ道府縣債ト市町
村債ニ分ケテ御調ベテ願ヒタイ、第二、現
行制度ニ於ケル家屋稅、雜種稅及ビ所得稅、
營業稅ノ附加稅ノ總額、之ヲ道府縣ノ收入
ト市町村ノ收入ニ分ケテ願ヒタイ、第三、
現行制度ニ於ケル地方團體ノ委任事務費ノ
總額、是モ道府縣ノ負擔ト市町村ノ負擔ニ
分ケテ願ヒタイ、第四、英、佛、獨ノ現行
所得稅法ヲ承知致シタイノデアリマス、ソ
レニ關スル資料、以上デアリマス
○堀切委員長 小山君ニ一寸御相談致シマ
ス、御請求ノ中ノ一番最初ニアリマシタモノ
ハ、高橋君ノ御請求、河野君ノ御請求ト共通シ
テ居ルヤウデアリマス、最近ノ國民所得ト
云フノデアリマスガ、是ハ御尤モナコトデ、
國民ノ所得ガ幾ラアツテ稅ヲ幾ラ取ツタラ
宜イカ、基礎デスカラ、之ニ付テハ内閣統計
局長ニ來テ貰ツテ、政府委員ニナツテ居ル
ヤウデアリマスカラ、此ノ根本ニ付テ一ツ
聽イテ見タラ如何デセウカ、私共毎年貰フ
ガ、昨年貰ツタモノニ依ルト、昭和五年マ
デシカ出デ居ナイ、其ノ五年ノ國民所得ノ
總額ガ百六億トカ何トカ云フノデスカラ、
今年ノ政府ノ豫算殆ド全部ガ、國民所得ニ該
當スルヤウナコトニナツテ居ルノデス、其
ノ後殖エタモノノ國民ガ暮シテ居ルヤウナ
譯デ、其ノ後ドレ程殖エタカ、是ハ根本的
ノ問題ダラウト思ヒマスカラ、統計局長ニ
モ此ノ次ハ來テ戴イテ、御説明ヲ願ヒタイ
ト思ヒマス、ソレデハ今日ハ此ノ程度デ散
會致シマス、次會ハ公報ヲ以テ御知ラセス
ルコトニ致シマス
午後二時三十五分散會

昭和十五年二月十四日印刷

昭和十五年二月十五日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局